

令和8年2月16日  
課名 健康福祉局医療機能強化推進課  
担当者 課長 石村  
内線 3086

## 「高度医療・人材育成拠点」の整備に向けた取組状況について

### 1 要旨・目的

全国トップレベルの高度医療の提供や医療人材の育成等の機能を持つ「高度医療・人材育成拠点」（新病院）の整備に向け、令和5年9月に策定（令和7年10月に変更）した「高度医療・人材育成拠点基本計画」に基づく新病院の医療機能や施設整備等に関する取組状況等について報告する。

### 2 現状・背景

- (1) 高齢化に伴って、医療ニーズが高まる一方で、労働力人口が減少し、医療を支える人的資源が縮小するとともに、多数の症例や研修体制が充実している大都市圏の病院に若手医師や研修医の集中が加速することで、県内の医師不足が顕在化することが見込まれる。
- (2) 中山間地域においては、地方の基幹病院の医師不足により、サービス供給停止・縮小を余儀なくされ、都市部に比べてより速く、医療基盤の維持が困難になることが予想される。

#### 【新病院開院までの流れ】 ※ スケジュールは現時点の想定



### 3 概要

#### (1) 対象者

県民、医療関係者等

#### (2) 実施内容（取組状況）

##### ア 会議等の開催

###### （ア）地方独立行政法人広島県立病院機構評価委員会

地方独立行政法人広島県立病院機構評価委員会条例の規定により、広島県が事業年度終了時に実施する業務実績評価を行うための方法等について、評価委員会から意見を聴取した。

**【構成員】** 枝広 直幹 (福山市長)、  
 大石 佳能子 (株式会社メディヴァ代表取締役社長)、  
 木倉 敬之 (全国健康保険協会理事)、  
 黒瀬 真理子 (広島県看護協会会长)、  
 平谷 優子 (ひかり総合法律事務所弁護士)、  
 松田 淳 (KPMG ヘルスケアジャパン株式会社代表取締役)、  
 ◎松村 誠 (広島県医師会会长)、  
 ※◎は評価委員会委員長

**【日時】** 令和7年度第1回会議（令和8年2月4日（水）開催）

**【主な議題】** 業務実績評価の方法（案）について

**【主な意見等】**

区分	内 容
評価方法について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画時に予想していなかったような不測の事態が生じた場合への対応など、理由を汲み取って評価出来る仕組みが設けられることが望ましい。</li> <li>・法人が行う自己評価について、担当やプロセスをあらかじめ定めておいた方が良い。</li> <li>・定量的な評価を行うにあたり、評価の理由や根拠が明確である必要がある。</li> </ul>
法人の現状等について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護人材の確保は県内に限定せず広く検討してほしい。また、スペシャリストの育成も計画的に進めてほしい。</li> <li>・新病院構想は医師偏在に対する打開策であり、新病院の開業を待たず、県北や備北地域の病院との連携を一層進めていただきたい。</li> </ul>

#### (イ) 医師配置検討委員会

地域医療体制の確保に向けて、大学、県といった人事権者等が参画する「医師配置検討委員会」を開催した。

地域の拠点病院を中心とした地域医療ネットワークにより、医療機関の連携体制を前提とした医療ニーズを集約するとともに、そのニーズに基づき、自治医科大学卒業医師や大学地域枠卒業医師に加え、大学医局医師も含めた医師の配置調整を行うため、関係者間で協議を行った。

**【構成員】** 大学、大学病院、広島県医師会、地域医療ネットワーク拠点医療機関等、市町、広島県、広島県地域医療支援センター

**【開催日】** 第2回会議（令和8年2月3日（火）開催）

**【議 題】** 令和8年度地域枠医師等配置原案等について

**【主な意見等】**

区分	内 容
配置調整等について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療ネットワークが構築されている芸北、備北地域において今年度、先行して取組を開始している。</li> <li>・総合診療医において、県（自治医科大学卒業医師）と大学の間で、配置の重複を避ける調整を図っている。</li> <li>・地域医療ネットワークでは、医師配置調整と合わせ、診療支援の取組も進めていく必要がある。</li> <li>・地域枠医師等の配置原案については、3月3日開催の広島県医療対策協議会に諮る。</li> </ul>

## (ウ) 基幹病院連携に関する意見交換会

広島都市圏の基幹病院間における医療機能の連携・分化の促進を目的として第3回会議を開催し、広島都市圏の救急医療における課題の情報共有・意見交換等を行った。

【構成員】広島大学病院、広島市民病院、広島赤十字・原爆病院、県立広島病院、広島市立病院機構、広島県立病院機構、広島県

【開催日】第3回会議（令和8年1月16日（金）開催）

【主な説明事項・議題等】広島都市圏の救急医療における基幹病院間の連携について

【主な意見】

区分	内 容
広島都市圏の救急医療について	<ul style="list-style-type: none"><li>・広島都市圏において、今後増加が見込まれる高齢者救急の受け皿は、新たな地域医療構想における高齢者救急・地域急性期機能を担う医療機関が主に想定されており、円滑な連携体制について検討を進めていくことが必要である。</li><li>・急性期病院において救急救命士の活躍の場が広がりつつあり、今後、救急救命士との連携によるタスクシフトをさらに推進していく必要がある。</li></ul>

## イ 新病院整備の進捗について

高度医療・人材育成拠点の整備に向け基本設計（建築）が完了した。現在、基本設計（設備等）を実施中であり、今後は技術協力者を選定し、実施設計をECI※により進める。

※ 実施設計の段階から施工会社が参画し技術協力をを行う建設プロジェクトの発注方式

【新病院イメージ図】



## ウ 地方独立行政法人広島県立病院機構の経営状況

令和7年4月に設立した地方独立行政法人広島県立病院機構における、令和7年4月～12月の経営状況及び経営改善に向けた取組等を報告する。

### (ア) 主な経営指標

#### a 患者数

【入院】広島病院では新規患者数は増加しているが、平均在院日数の短縮により延べ患者数は前年度と比べて減少。また、二葉の里病院では新規患者数は前年度より減少したもの、延べ患者数は前年度と比べて増加。安芸津病院では新規患者数、延べ患者数ともに前年度と比べて減少。

【外来】3病院とも新規（初診）患者数、延べ患者数ともに前年度と比べて減少。

【4月～12月の状況】

項 目		累計(4～12月)				計画(年間)		
		R7 ①	R6 ②	対前年		R7 ③	対計画 達成率 ①/③	
				率 ①/②	差 ①-②			
入院	広島	延べ入院患者数 (人)	141,978	145,480	97.6%	△3,502	206,079	68.9%
		新規患者数 (人)	13,196	12,763	103.4%	433	18,007	73.3%
		平均在院日数 (日)	9.5	9.8	96.9%	△ 0.3	-	-
		病床稼働率(587床)4～9月 (627床)10月～ (%)	86.0	84.4	101.9%	1.6	90.0	-
入院	二葉の里	延べ入院患者数 (人)	49,326	48,727	101.2%	599	72,781	67.8%
		新規患者数 (人)	3,876	4,130	93.8%	△254	6,603	58.7%
		平均在院日数 (日)	10.8	10.6	101.9%	0.2	-	-
		病床稼働率(269床)4～11月 (227床)12月～ (%)	67.9	65.9	103.0%	2.0	74.1	-
入院	安芸津	延べ入院患者数 (人)	18,179	20,225	89.9%	△2,046	31,025	58.6%
		新規患者数 (人)	722	866	83.4%	△144	1,305	55.3%
		平均在院日数 (日)	19.9	18.7	106.4%	1.2	-	-
		病床稼働率(98床) (%)	67.5	75.0	89.9%	△7.6	86.7	-
外来	広島	延べ外来患者数 (人)	182,777	185,270	98.7%	△2,493	282,793	64.6%
		新規(初診)患者数 (人)	15,093	15,243	99.0%	△ 150	-	-
		延べ外来患者数 (人)	80,414	84,738	94.9%	△ 4,324	137,641	58.4%
		新規(初診)患者数 (人)	9,144	10,208	89.6%	△ 1,064	-	-
外来	二葉の里	延べ外来患者数 (人)	36,885	36,944	99.8%	△ 59	51,215	72.0%
		新規(初診)患者数 (人)	3,130	3,245	96.5%	△ 115	-	-
		延べ外来患者数 (人)	690	742	93.0%	△52	1,233	56.0%
		新規(初診)患者数 (人)	37,961	36,682	103.5%	1,279	39,730	-

b 収益

【入院】 単価は、二葉の里病院では前年度と比べて減少しているが、広島病院と安芸津病院では増加。稼働額は、広島病院、二葉の里病院では前年度に比べて増加。安芸津病院では前年度に比べて減少。

【外来】 単価は全ての病院で前年度と比べて増加しているが、稼働額は、広島病院、二葉の里病院では前年度と比べて減少。安芸津病院では前年度に比べて増加。

【4月～12月の状況】

項 目		累計(4～12月)				計画(年間)		
		R7 ①	R6 ②	対前年		R7 ③	対計画 達成率 ①/③	
				率 ①/②	差 ①-②			
入院	広島	稼働額 (百万円)	13,006	12,591	103.3%	415	18,592	70.0%
		入院単価 (円)	91,604	86,547	105.8%	5,058	90,218	-
	二葉の里	稼働額 (百万円)	3,036	3,006	101.0%	30	4,773	63.6%
		入院単価 (円)	61,546	61,685	99.8%	△139	65,578	-
外来	安芸津	稼働額 (百万円)	690	742	93.0%	△52	1,233	56.0%
		入院単価 (円)	37,961	36,682	103.5%	1,279	39,730	-
	広島	稼働額 (百万円)	5,098	5,215	97.8%	△117	8,401	60.7%
		外来単価 (円)	27,986	27,813	100.6%	173	29,708	-
外来	二葉の里	稼働額 (百万円)	1,446	1,466	98.6%	△20	2,326	62.2%
		外来単価 (円)	17,983	17,304	103.9%	679	16,898	-
	安芸津	稼働額 (百万円)	307	290	106.0%	17	416	73.8%
		外来単価 (円)	8,323	7,840	106.1%	482	8,123	-
入院+外来	広島	稼働額 (百万円)	18,104	17,806	101.7%	298	26,993	67.1%
	二葉の里	稼働額 (百万円)	4,482	4,472	100.2%	10	7,099	63.1%
	安芸津	稼働額 (百万円)	997	1,032	96.7%	△34	1,649	60.5%
	計	(百万円)	23,583	23,310	101.2%	273	35,741	66.0%

(参考) その他年度計画に定める主な経営指標

項目	累計(4~12月)				計画(年間)	
	R7 ①	R6 ②	率 ①/②	差 ①-②		
広島	救急車受入台数 (台)	6,015	5,645	106.6%	370	7,600 79.1%
	全身麻酔手術件数 (件)	3,614	3,668	98.5%	△54	4,800 75.3%
	ロボット支援手術件数 (件)	185	164	112.8%	21	210 88.1%
	三次救急(ホットライン)受入率 (%)	91.9	84.3	109.0%	7.6	88.0 —
	紹介率 (%)	95.2	97.5	97.6%	△2.3	96.3 —
二葉の里	逆紹介率 (%)	144.4	143.6	100.6%	0.8	148.2 —
	救急車受入台数 (台)	1,018	1,177	86.5%	△159	1,600 63.6%
	全身麻酔手術件数 (件)	1,018	1,036	98.3%	△18	1,368 74.4%
	内視鏡治療件数 (件)	6,623	6,678	99.2%	△55	8,750 75.7%
	化学療法件数 (件)	1,439	1,241	116.0%	198	1,666 86.4%
安芸津	紹介率 (%)	72.5	73.2	99.0%	△0.7	75.0 —
	逆紹介率 (%)	100.9	94.0	107.3%	6.9	95.0 —
	救急車受入台数 (台)	264	283	93.3%	△19	380 69.5%
	訪問看護件数 (件)	1,797	1,630	110.2%	167	2,000 89.9%
	健(検)診件数 (件)	979	992	98.7%	△13	1,150 85.1%
	紹介率 (%)	21.7	20.7	104.8%	1.0	19.0 —
	逆紹介率 (%)	26.4	24.5	107.8%	1.9	24.7 —

(イ) 経営改善の主な取組

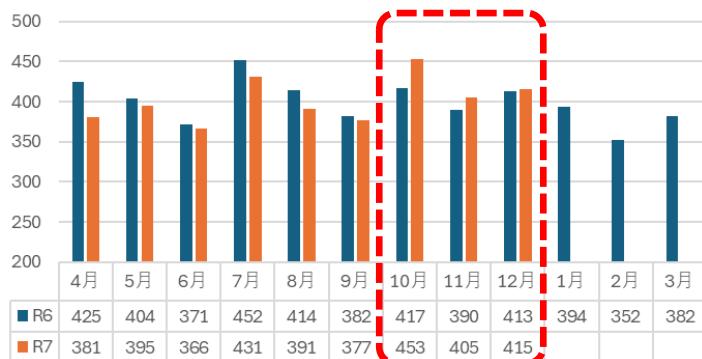
診療体制の強化や費用の最適化など、経営改善に向けた各種取組を進めている。

【主な取組】

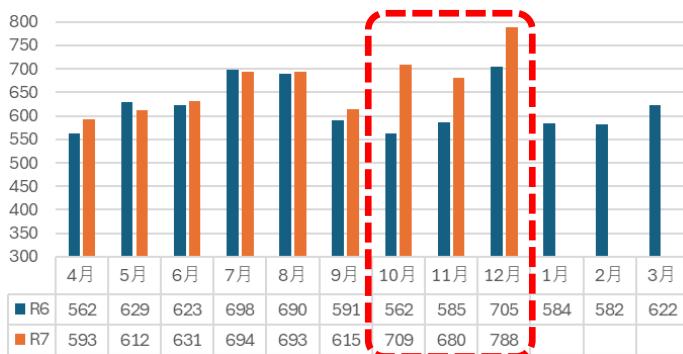
取組	進捗等
病棟の早期再開と安定稼働	<ul style="list-style-type: none"> <li>○広島病院の西6病棟40床を再稼働 (R7.10~)           <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒延入院患者数の増加</li> <li>R7上半期: 502人/日 → 10~12月: 545人/日 (43人増加)</li> </ul> </li> <li>○令和8年度中にさらに1病棟を稼働することを目指し、繰上採用や機構の病院間の機動的な人員配置等により、稼働に必要な体制を確立していく。</li> </ul>
診療機能の強化に向けた医師確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外科系医師の増員 (心臓外科医(広島病院) R7.8~+1人、R7.10~+1人など)</li> <li>○広島大学との調整、全国からの医師確保、研修プログラムの充実などを通じ、診療機能の強化を図っていく。</li> </ul>
共同購入・委託見直しによる費用最適化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○広島大学等の外部機関からの助言を踏まえ、価格交渉を実施するとともに、一括発注を実施。</li> <li>○3病院の委託業務の共同契約や仕様変更などの見直しにより費用を最適化。           <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒感染症廃棄物処理業務委託について広島病院と二葉の里病院の2病院で共同契約</li> <li>スケールメリットを活かし、費用を削減</li> <li>(処理単価: 広島△56.5%、二葉の里△78.3%)</li> </ul> </li> </ul>

(参考) 全身麻酔手術件数・救急車受入件数の推移 (R6・R7)

・全身麻酔手術件数 (広島病院)



・救急車受入件数 (広島病院)



## エ 山口フィナンシャルグループからの寄附

山口フィナンシャルグループから県に対し、高度医療や地域医療を担う医師育成等を使途として、企業版ふるさと納税を活用した寄附の申し出があった。

寄附者の意向を踏まえ、高度医療・人材育成拠点の整備に向けて広島大学と締結した「高度医療・人材育成拠点の整備に関する協定書」に基づき、来年度から、寄附金を原資とした広島大学病院への補助制度（例：最新医療機器や遠隔診療支援等を活用した高度医療、地域医療を担う医師の育成、医療提供体制に課題がある「こどもの心」領域について指導医配置等による医師の育成、等）を創設する予定。

【寄附企業】株式会社北九州銀行（山口フィナンシャルグループ子会社）

【寄附額】1億円/年

### (3) 予算額（一部国庫）

令和7年度当初予算額 67,073,308千円（債務負担行為額 1,249,000千円）

### (4) その他

高度医療・人材育成拠点の整備について（広島県 HP）

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/276/koudoiryou-jinzaikuseikyoten.html>

（※高度医療・人材育成拠点基本計画や基本構想、各種会議資料などを掲載）



地方独立行政法人広島県立病院機構について（機構 HP）

<https://hpho.jp/>

（※機構概要、病院紹介などを掲載）

